

平成28年度 ひまわりパーク六本松事業報告

事業概要

平成24年中央区六本松に事業所を開所以来、安心して働き、また地域に貢献する事業所を目指して運営しています。地域との交流は地域の清掃を積極的に行うとともに花壇の水やりなどの役割も得て地域の一員である事業所として多くの支援をいただいています。平成28年度はB型事業所として工賃向上を目指し、アート活動・販売、簡易作業を通じて社会と関わり、元気な事業所づくりに取り組んできました。また、あわせて九州大学跡地の新しいまちづくりに参加し、九州大学との共同研究としてICカードを平成28年5月から出勤時に活用し、さらに安心な事業所となるように進めています。

具体的な事業内容は次のとおりです。

1 利用者状況

平成29年3月31日現在

項目	内容		
平均年齢	46.7歳（19歳～62歳）		
職員数	11名		
事業別利用者数	実数（定員）	男性	女性
・就労継続支援事業B型	27（24）	18	9
・就労移行支援事業	6（6）	4	2
合計	33（30）	22	11

2 主な事業の取り組み

(1) 事業別活動状況（生産活動）

ア 就労継続支援事業B型（工賃向上を目指す事業）

就労継続B型事業平均工賃（月額）

平均月額（ ）は27年度	作業内容
13,079円 (8,415円)	アート活動・販売（文具他）・簡易作業（封入他） 公民館清掃等

販売における新規や出品増の取り組みは次のとおりです。

出品回数 76日・回 (新規26日・回)	主な新規出品として県のまごころ製品大規模販売会などデパートでの販売や、商店街（5日間連続）のほかスーパー等にも定期的に出品
-------------------------	---

28年度のアート活動・販売は文具を中心に商品化を拡げ、カレンダーの種類を1種類（卓上型）増やし2種類にしたほか、「ひとこと箋」を2種類（縦・横）新たに制作し、出品及びカタログ販売における主力・人気商品として販売し定着しつつあります。

出品販売のほか「春・夏カタログ」、「秋・冬カタログ」を充実させ、カタログ販売訪問先も拡げました。

アート活動は事業所のアートグッズの商品数を増やすとともに、二次使用として地下鉄のホームドア、飲料水の自動販売機に使用されたほか、原画販売も行いました。ライブペイントなどへも積極的に参加しました。

またアート担当職員は佐賀県内の障がい者就労事業所へアドバイザーとして絵画制作の環境づくり、商品展開などのアドバイスを行いました。

次にアート以外の作業として事業所内で行う簡易作業は封入・封かん作業を中心に行いましたが、28年度は通常の作業のほか市の啓発グッズ（8,000セット）作成や育成会で共同受注した市郵送物配送業務に取り組みました。このほか中央区内公民館清掃業務等を育成会で共同受託し、工賃向上を図ることができました。

28年度は事業所として工賃向上を目指し、アートグッズの販売を積極的に行い就労収入も増えましたが、安定した簡易作業の確保とともに公共性の高いグッズ等が採用されるための取り組みが今後とも必要となっています。

今後は簡易作業が増えるように丁寧な作業を行うとともに請負先の拡充が課題となっています。

イ 就労移行支援事業（就職を目指す事業）

利用者を対象に就職を目指す活動（見学や実習、受験等）を行いましたが、結果として一般就労に結びつくことはできませんでした。一方、平成27年4月1日付で一般就労に採用された方の定着支援（巡回や電話）にあたりとともに、今後の就労に向けて年度後半は見学等を積極的に企画し就労意欲の向上のために取り組みました。

（2）余暇支援について

休日の余暇の充実を目的に毎月1～2回、前年度の利用者の希望も踏まえて実施しました。毎回20名前後（年間20回、延べ328名）の参加があり、楽しむとともに体験を通してマナーやルールを学ぶことができました。

29年度も利用者の意向を踏まえながら、健康づくり等課題にも取り組む

必要があります。

(3) サークル活動の取り組み

28年度も外部講師指導のもとエアロビクスを従来どおり毎月実施しました。多くの利用者の皆さんは楽しみにして積極的に取り組んでいました。このほか刺繍等を希望する利用者も一定程度おられるため、年度途中から「エアロビクス」「刺繍」という2つのサークルを同時に実施することで多くの利用者のニーズに対応できました。今後もサークル活動の充実に向けて検討する必要があります。

(4) 健康支援(加齢化対策)の取り組み

加齢化に伴う疾病(生活習慣病等)の予防に向けて次のような支援を行いました。

事業名	内容	参加者数
よかドッグ同行支援 (年1回)	福岡市のよかドッグの受診促進のため、近隣の医院へ職員同行で受診し、生活習慣病の改善を目指す。	希望者 12名
レントゲン検診同行支援 (年1回)	保健所において集団検診を受検し感染性疾患の予防を図る。	希望者 21名
健康づくり教室 (毎月1回)	地域の医療機関の協力により健康づくり教室を開催し、理学療法士の指導により腰痛、肩こり予防のストレッチ等のほか健康に関する指導を受ける。	利用者 全員

基本的な健康管理の支援を行っていますが、加齢に伴う疾患予防のため、各利用者の状況も把握し、新たな支援も検討する必要があります。

(5) 本人活動の取り組み

日々のあらゆる機会に、自ら「考える」「選択する」「行動する」ことは重要です。その一つとして利用者が楽しみにしている「バスハイク」の目的地や行程について利用者間の話し合いで目的地等を決定するなど機会を設ける取り組みを行っています。今後とも本人活動の充実につながる支援を工夫する必要があります。

(6) 安心・安全対策の取り組み

消防計画に基づく避難訓練を実施し防災に対する意識を高めました。また、防災センター見学・体験を通じて防災意識等の向上に努めています。日常の防犯対策として施錠の確認を職員、利用者間で定着するように進めるほか、随時警察（交番）とも連携を図るように努めています。

(7) 九州大学との共同研究による見守り実証実験

事業所では「草ヶ江地区のICTを用いた街づくり」に参加し、利用者が無事に事業所に通勤していることを保護者へメール配信を行う機能と出退勤の時間管理をする事業を九州大学と共同研究で平成28年5月から開始しました。利用者は出退勤時にICカードをかざすことで保護者へ事業所に到着したことや事業所を出たことをメール配信するシステムを活用しています。保護者からもメール配信によって安心できるとの評価も得ており、今後とも共同研究を通じて見守り、安心に結びつく方策ほか支援等を研究していく必要があります。

(8) 給食提供の取り組み

給食部会を随時実施し、献立内容、調理方法や感染症対策等に関して給食業者と協議し、利用者の健康状態に配慮した弁当給食の提供を行いました。特にノロウイルス対策として食事前の手洗い、消毒の徹底を行いました。

(9) 苦情解決及び虐待防止への取り組み

法人主催の虐待防止研修では、チェックリストにより支援者各人の行動の振り返りを行い、意識の改善を図りました。なお、28年度は具体的な苦情等はありませんでしたが、日頃から利用者、保護者と交流を図るよう努めています。

(9) 職員研修の取り組み

経験年数や役割に応じて、法人内の研修をはじめ市や県社協、社会就労センター等の研修に参加し、知識や技術の習得を図りました。障害者虐待防止法や人権に関する研修は職員全体に内容の周知理解を図り、また定期的な事例検討により支援のあり方を見直し職員の資質向上に努めています。

(10) 介護等体験及び実習生等の受入

職員の人材育成及び実習生等を受け入れることで利用者への支援等がより客観的に把握することができるため、介護等体験大学生13名、福祉関係実習生4名の計17名の実習生を受け入れました。

3 地域交流の取り組み

校区の民生委員さんが毎月ボランティアとして作業いただいています。事業所も地域のまつりに積極的に参加するほか町内会から花壇の世話を任せられ、地域の方と一緒に花いっぱい運動を進めています。資源のリサイクルや事業所周辺のゴミ拾いも定期的に行い、地域との交流も進めています。今後とも、地域の清掃活動に取り組むとともに、気軽に立ち寄っていただくことができる事業所となるように取り組んでいく必要があります。

また、地域貢献についても今後関係団体等と連携し検討していく必要があります。